

# 24年3月期 業績総括 及び 中期経営計画の進捗状況

代表取締役 執行役員 社長  
當麻 隆昭

2024年4月26日

1. 24年3月期 業績総括 及び 25年3月期 業績予想

2. 中期経営計画の進捗状況

(Appendix)

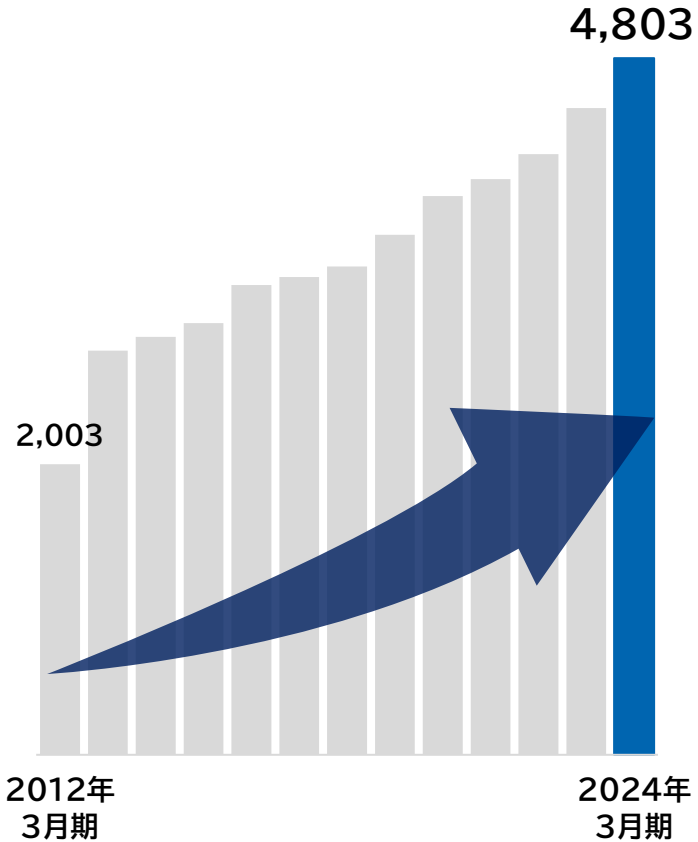


# 1. 24年3月期 業績総括 及び 25年3月期 業績予想

顧客企業のIT投資需要が想定を超えて推移したことから、2023年10月公表の上方修正値を上振れて着地計画を上回る業績に鑑み、24年3月期 期末配当を追加で2円増配（2023年4月公表の配当予想から4円増配）

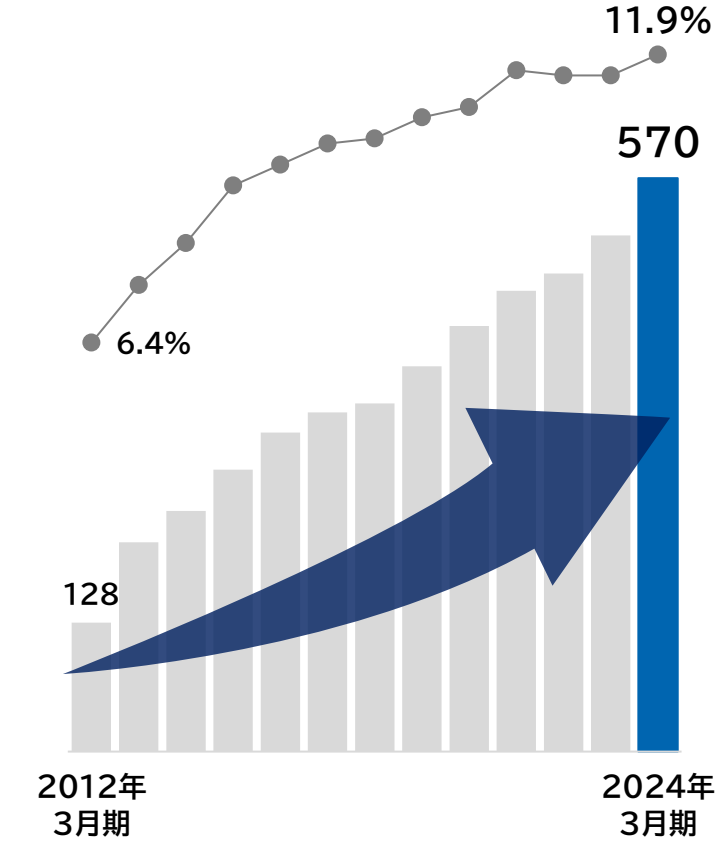
## 売上高

(億円)



## 営業利益・営業利益率

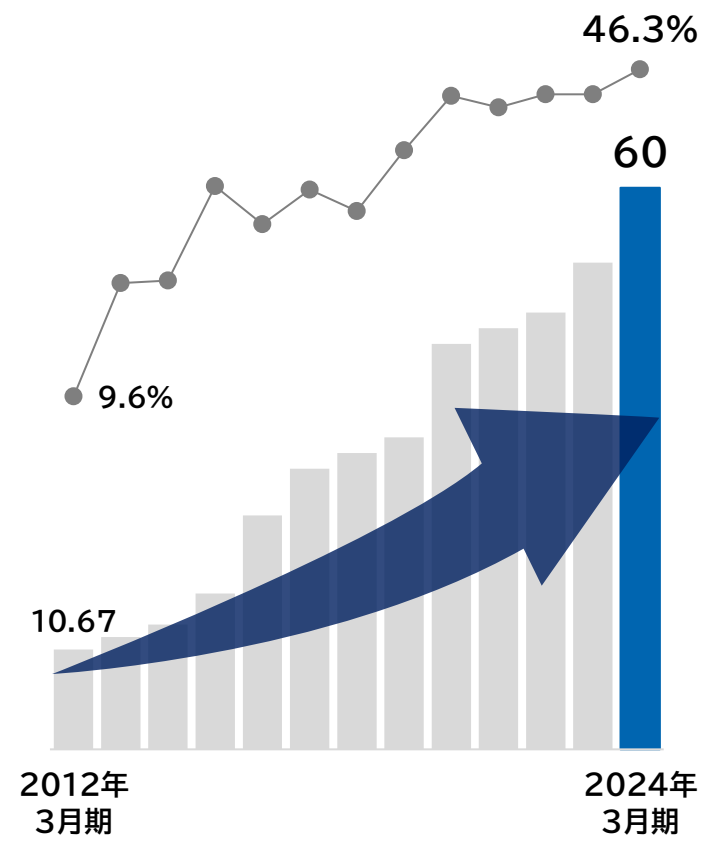
(億円)



## 1株当たり年間配当金・配当性向

(円)

※株式分割後換算値



# 25年3月期 通期連結業績・配当予想

## 【業績予想】

	24年3月期(実績)	25年3月期(予想)	増減額	増減率
売上高	4,803億円	5,100億円	+296億円	+6.2%
営業利益	570億円	620億円	+49億円	+8.8%
営業利益率	11.9%	12.2%	+0.3pt	-
親会社の所有者に 帰属する当期利益	404億円	445億円	+40億円	+10.0%

## 【配当予想】

	24年3月期(実績)	25年3月期(予想)	増減額	増減率
1株当たり 年間配当金	60.00円	68.00円	+8.00円	-
配当性向	46.3%	47.7%	+1.4pt	-



## 2. 中期経営計画の進捗状況

- “総合的企業価値”の飛躍的な向上に向け、
  - ・お客様や社会に対して、新たな価値を提供し続けるため、事業分野、事業モデルを再構築する
  - ・社員の成長が会社の成長ドライバーと認識し、社員一人ひとりの市場価値を常に最大化する

全既存事業において実行

基本戦略 **1** 事業シフトを断行  
～ 3つのシフト～

- 1 顧客市場 成長力ある事業領域へのシフト
- 2 提供価値 高付加価値分野へのシフト
- 3 事業モデル 高生産性モデルへのシフト



リソースを集中し高成長を実現

基本戦略 **2** 成長市場において、市場をリードする事業を推進

2030年「共創ITカンパニー ～ITの、つぎの、幸せへ。～」にむけて

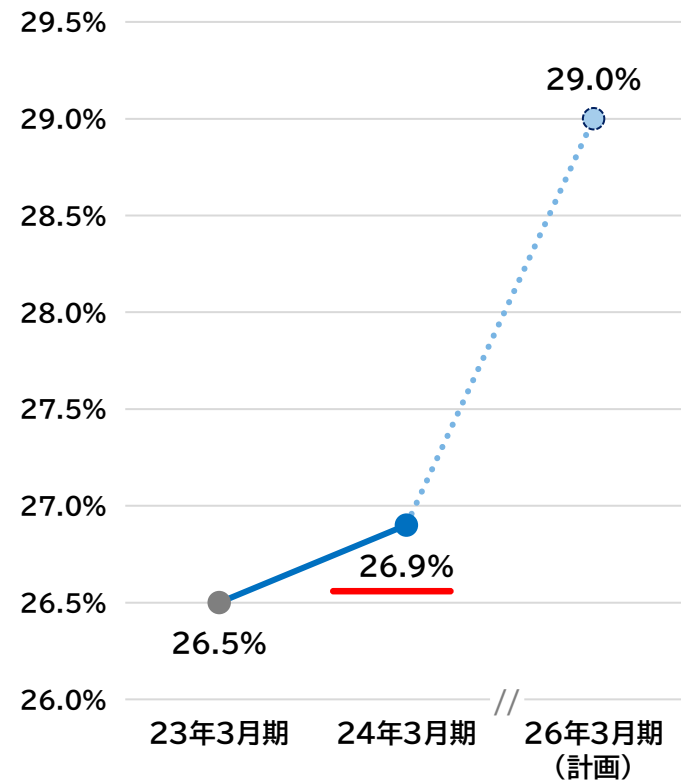
基本戦略 **3** 社会との共創による『次世代デジタル事業』を創出



## 基本戦略1-2 高付加価値分野へのシフト

前年同期比 +0.4pt

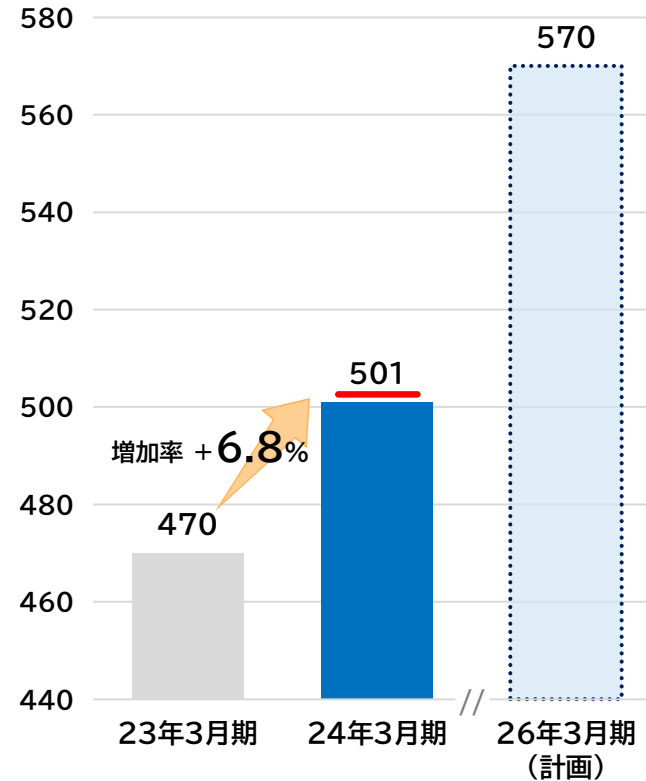
(売上総利益率:%)



## 基本戦略1-3 高生産性ITへのシフト

前年同期比 +31万円

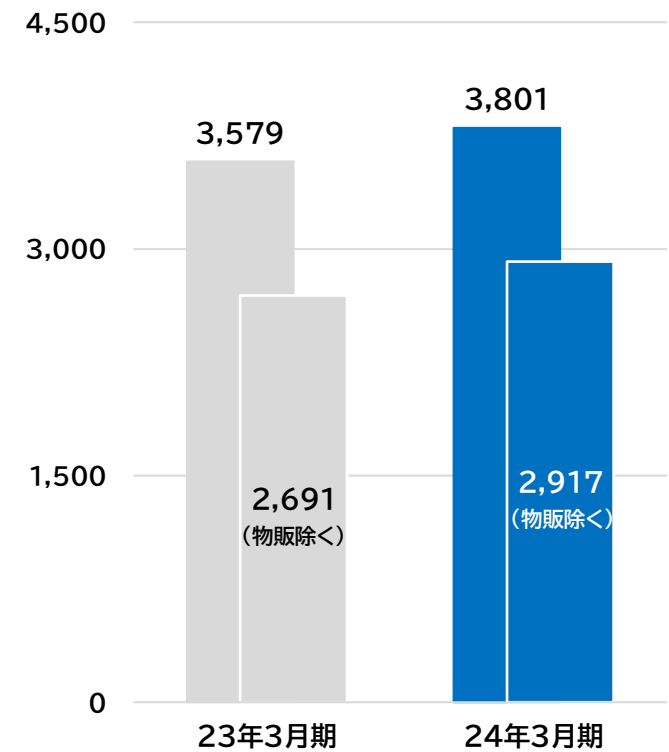
(1人当たり営業利益額:万円)



## (ご参考) 国内ITサービス売上推移

前年同期比 +6.2%

(億円)



\* 基本戦略1-1の実績は最終年度に開示、基本戦略1-2の実績は国内ITサービスから物販を除いた売上にて算出



## < 基本戦略2 >

成長市場において、市場をリードする事業を推進

1

### 社会・顧客課題解決に向けたモダナイゼーションサービス

- ・ 製造領域（デジタルサプライチェーン、atWill）
- ・ 金融領域（AML、ウェルスマネジメント）
- ・ 中堅企業データドリブン経営支援（ProActive）
- ・ BPM（ビジネスプロセスモダナイゼーション）

2

### 新しい価値創造に向けたイノベーションサービス

- ・ ヘルスケア（医療分野向けデジタル業務改革支援）
- ・ モビリティ（SDM時代をリードするモビリティソフトウェア開発）

3

### 社会のデジタル化を支えるインテグレーションサービス

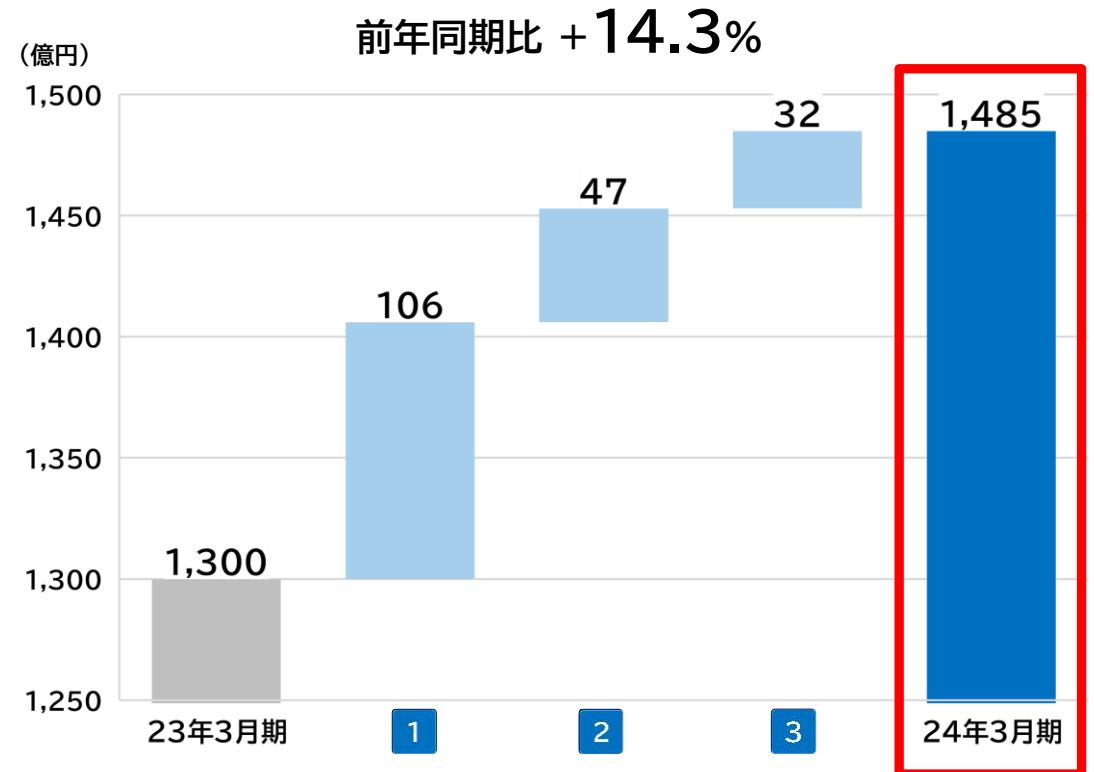
- ・ セキュリティ
- ・ データインテグレーション
- ・ クラウドインテグレーション



### デジタル化の潮流を捉えるマーケットエクспанション

- ・ グローバル（エマージングマーケットでのデジタル改革）

## 売上規模の推移

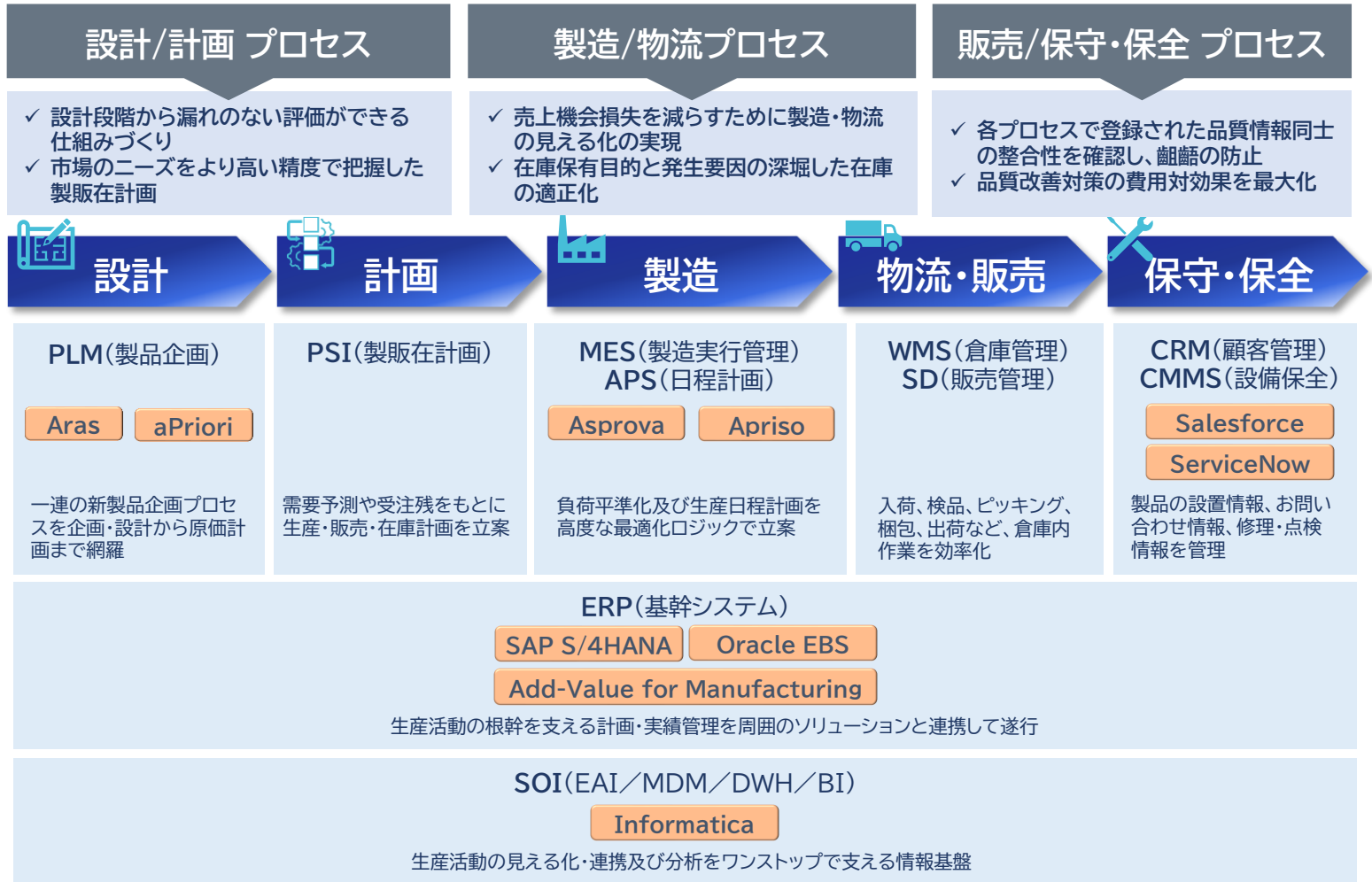


### < 主な増加要因 >

- デジタルサプライチェーンが好調に推移した他、インボイス対応等でProActive案件が増加
- 自動車業向け戦略的投資需要を捉えたことにより、モビリティが伸長

## ソリューションマップ(イメージ)

### 製造業サプライチェーンを最適化し、プロセス改革を実現



[特徴]

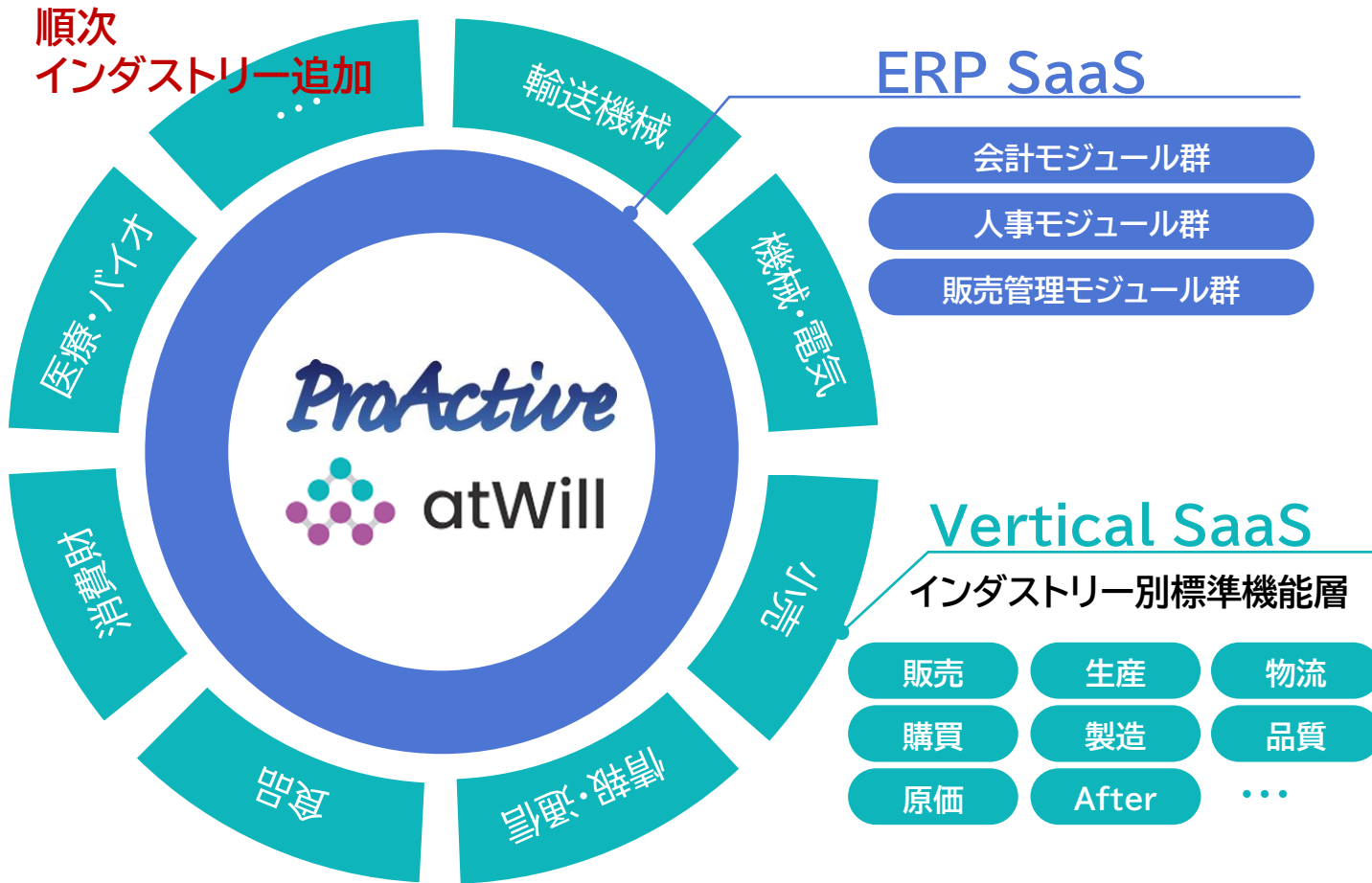
売上の3割を占める製造業の  
お客様との強い関係性  
(24年3月期実績 31.1%)

[強み]

- 大手製造業様向けシステム構築で培ってきた業務知見
- 豊富なERP導入実績
- システム間連携を実現する技術力

- 「グローバル」「強靱性」「サステナブル」なサプライチェーン変革をお客様と共に実現 (SCSKのデジタルサプライチェーン事業)

# 基本戦略2 ProActive事業の進捗と今期の取り組み

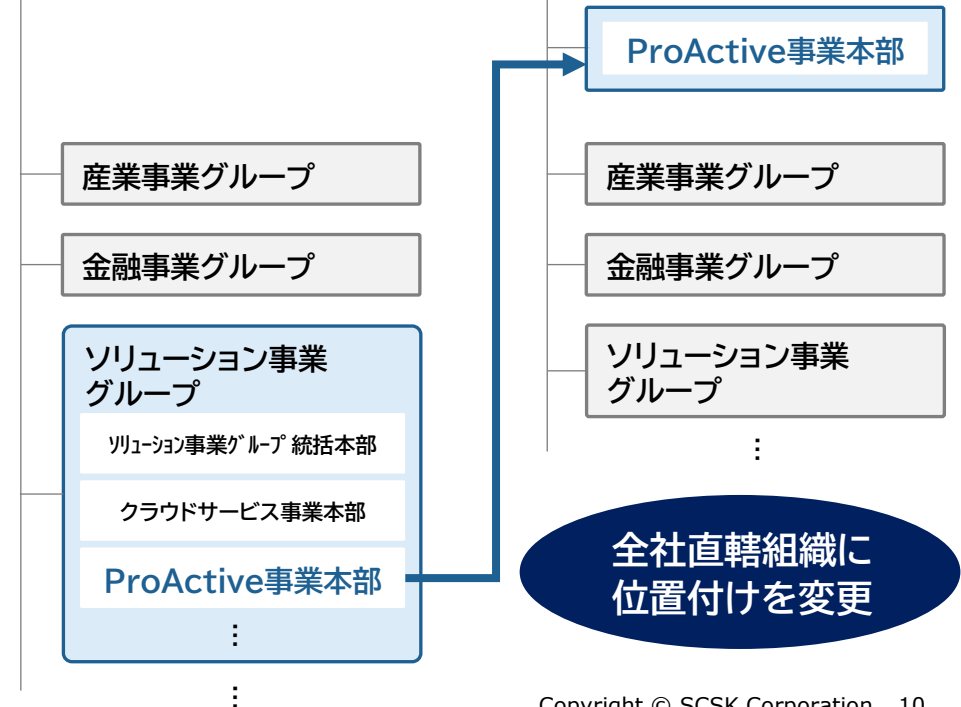


- ProActive事業(ERP SaaS)とatWill事業(VERTICAL SaaS)を統合
- 生産管理領域を含めたSaaS型の事業モデルへ転換
- 今期ProActiveC4 販売管理モジュールをリリース

## 機構改革前(～24年3月)



## 機構改革後(24年4月～)



**全社直轄組織に  
位置付けを変更**

- 大きな変革期を迎えるモビリティ業界
- クルマづくりはハードウェア中心からソフトウェア中心へ



SoftWare Defined Mobility  
(SDM)

<SCSKが目指す姿>  
SDM時代をリードする共創型モビリティサービス

OEM・サプライヤー各社との共創戦略を加速

【本田技研工業様】  
ソフトウェア開発領域における  
戦略的パートナーシップに基本合意

(2023年7月7日 プレスリリース)

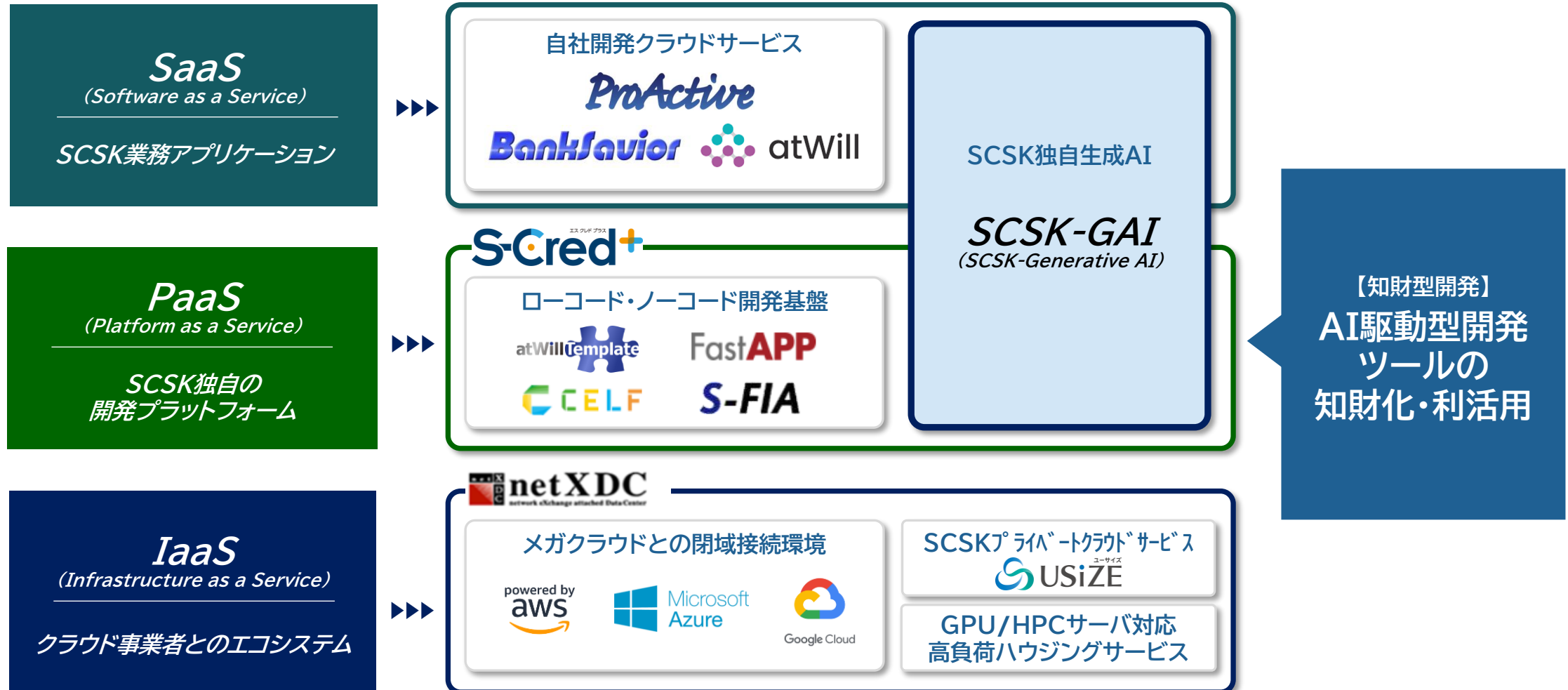
【ルネサスエレクトロニクス社】  
車載ソフトウェアプラットフォーム  
製品における協業契約を締結

(2023年7月28日 プレスリリース)

【トヨタコネクティッド様】  
車両のコネクティッドサービス分野  
における4領域で協業を開始

(2024年3月18日 プレスリリース)

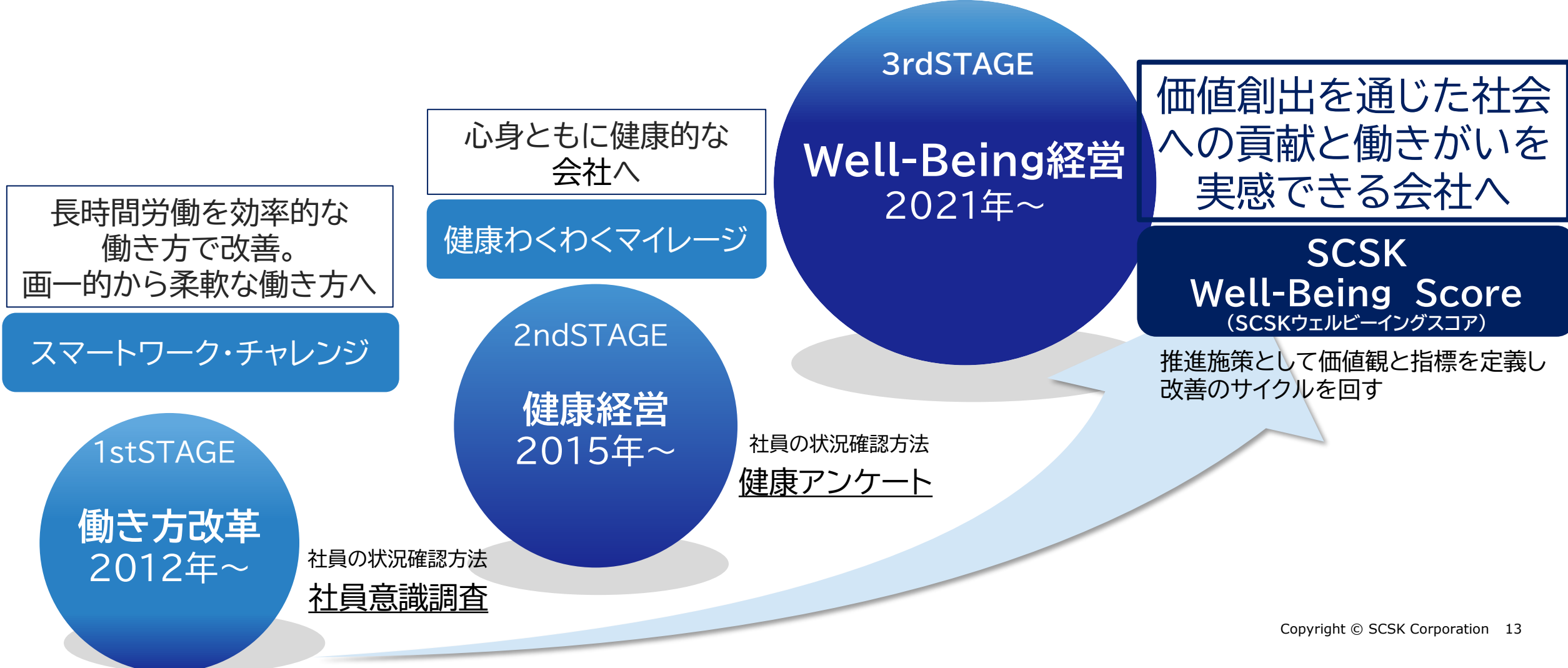
システム開発での生成AI活用を加速し、中計基本戦略の推進を技術面から強力に後押し



健康経営を超えて『Well-Being経営』へ

「働きやすさ」から「働きがい」へ

SCSKのこれまでの取り組みを土台に、次のステージとしてWell-Being経営を定義し、取り組みを推進していく



## SCSKのブランディング拠点「SCSK LINK SQUARE」を東京ミッドタウン八重洲に開設 ～共創ITカンパニーの実現に向け新たな価値の創出へ～



▶▶ WELCOME AREA



▶▶ EXPERIENCE AREA



▶▶ COLLABORATION AREA



SCSK LINK SQUAREのコンセプトは「心地よい未来の共創空間」です。この場所を通じて、素敵で心地よい「共創体験」を得てもらい、お客様をはじめとするご来訪者と「共創」を生み出してもらいたいとの想いを込めました。ロゴマークには「繋がる」「集まる」をイメージし、この場所を通じて繋がっていくことを表したロゴマークとなっています。

「繋がる」:SCSK LINK SQUAREを拠点にさまざまな繋がりを持ち、それをきっかけに共創の輪を広げていく  
「集まる」:さまざまな人たちと出会い、交りながら、新たなものを創り上げる

## 【業績推移】

	23年3月期(実績)	24年3月期(実績)	25年3月期(予想)	26年3月期(計画)
売上高	4,459億円	4,803億円	5,100億円	-
営業利益	513億円	570億円	620億円	650億円
営業利益率	11.5%	11.9%	12.2%	12.5%以上
親会社の所有者に 帰属する当期利益	373億円	404億円	445億円	-

## 【配当推移】

	23年3月期(実績)	24年3月期(実績)	25年3月期(予想)	26年3月期(計画)
1株当たり 年間配当金	52.00円	60.00円	68.00円	-
配当性向	43.5%	46.3%	47.7%	50.0%



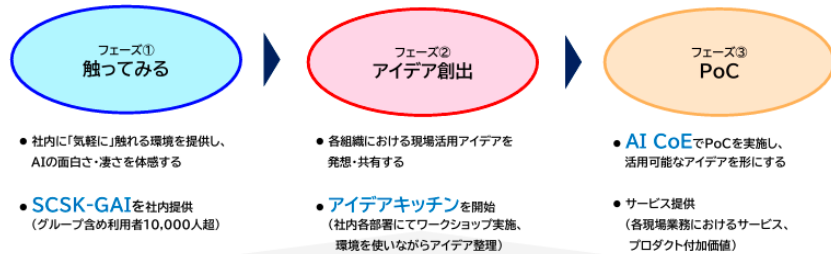
A decorative graphic on the left side of the slide consists of several overlapping, curved lines in various colors: blue, orange, yellow, green, and purple. Each line starts from the bottom left and curves upwards and to the right, ending in a small dot of the same color. The lines are thin and have a slight gradient.

**(Appendix)**

## 中期経営計画の推進状況 (トピックス)

SCSK

– AIの戦略的専門組織の設置および生成AI(SCSK Generative AI)活用に向けた取り組み –



## 中期経営計画の推進状況 (トピックス)

SCSK

– 上流工程やPRJ遅延の予兆検知に生成AIを活用し、質的な側面で生産性と品質の向上を目指す –

工程	適用作業	工程	適用作業
要件定義	既存システム要件把握支援 要求・要件ヒアリング支援 要件定義書作成支援 要件定義レビュー	環境構築	インフラ設計、環境構築・テスト
設計	設計支援 設計レビュー	運用構築	運用設計、運用構築・テスト
実装	コーディング支援 コード仕様書作成 コードレビュー	リリース	教育、サポート
テスト	テスト設計支援 テスト設計レビュー テストコード/データ生成 テスト結果分析	運用	運用自動化 運用報告
		保守	不具合調査、影響調査 リファクタリング、仕様化 要員引継ぎ支援
		保守開発	マイグレーション 移行テスト
		管理	PM/PMO作業支援

Copyright © SCSK Corporation 14

## 要件定義工程での適用検証

- 自社システムの開発において適用検証を実施
  - ・ 要件定義書への記載項目の検討からドラフトレベルのドキュメント作成が可能であることを確認
- 生成AIに要件を読み込ませることで、仕様確認による調査工数の削減、専門用語の確認等についての副次的な効果も期待

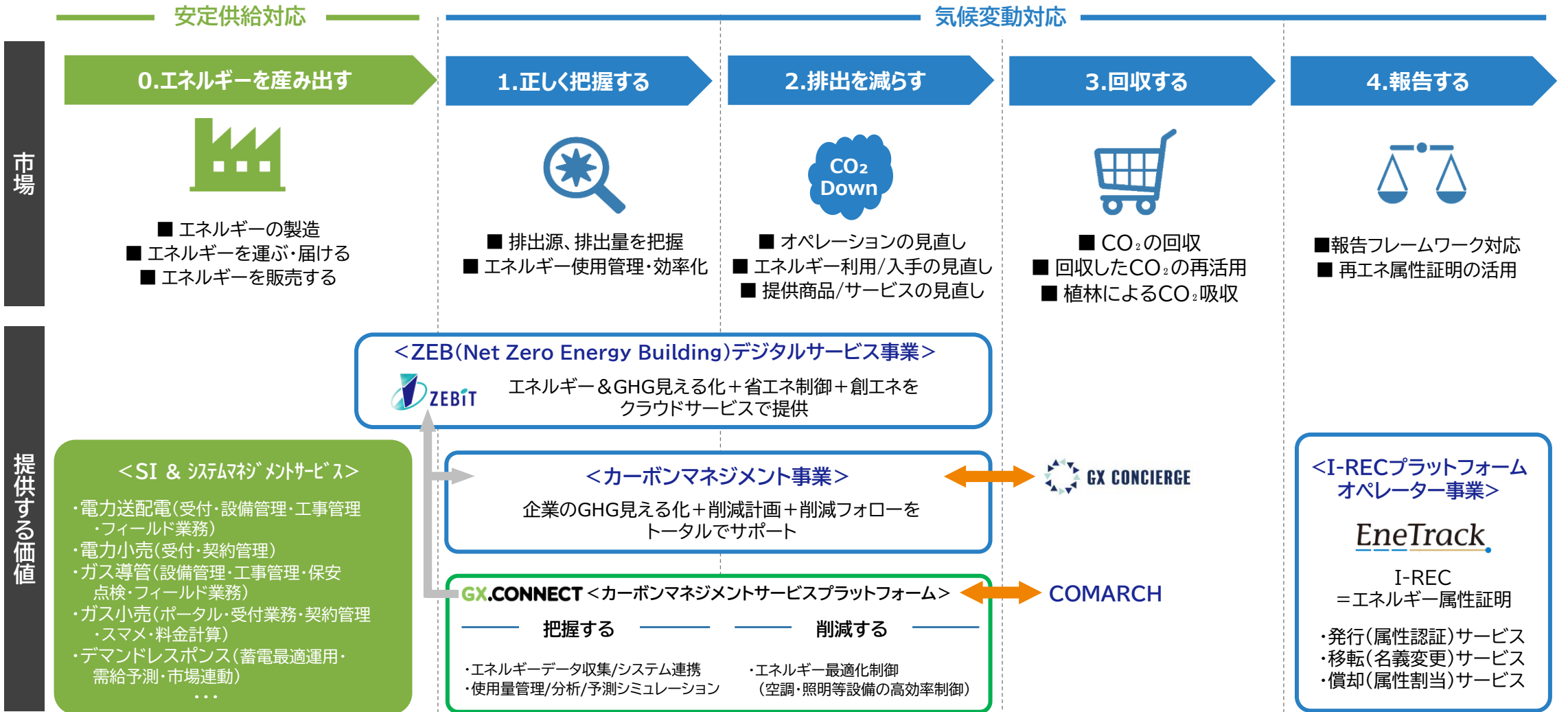
## 実装及び単体テスト工程での適用検証

- 同じく自社システム開発において検証を実施
  - ・ 概ね20-30%の生産性向上を確認
- 特に単体テスト工程においては作業時間、作業品質両側面において大幅な生産性向上を見込む

(24年3月期 第2四半期決算説明会資料)

# 基本戦略3 GX分野での取り組み (1/2)

社会構造の変化を見据え、エネルギー領域における多様な市場に対し、事業開発／サービス提供

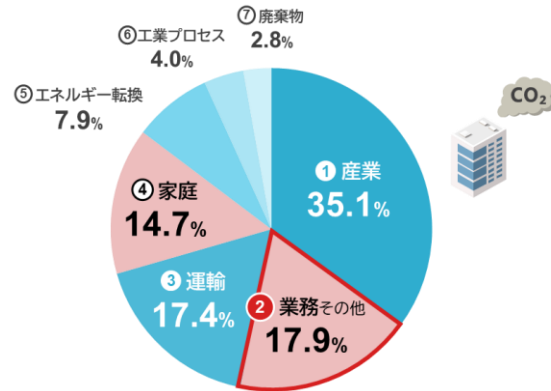


## カーボンニュートラル実現への課題

### 建築物の脱炭素化は喫緊の課題

- 建築物からのCO2排出量は全体の3割超 (業務用建築物からの排出は17.9%)

合計 約**10億6400**万トン



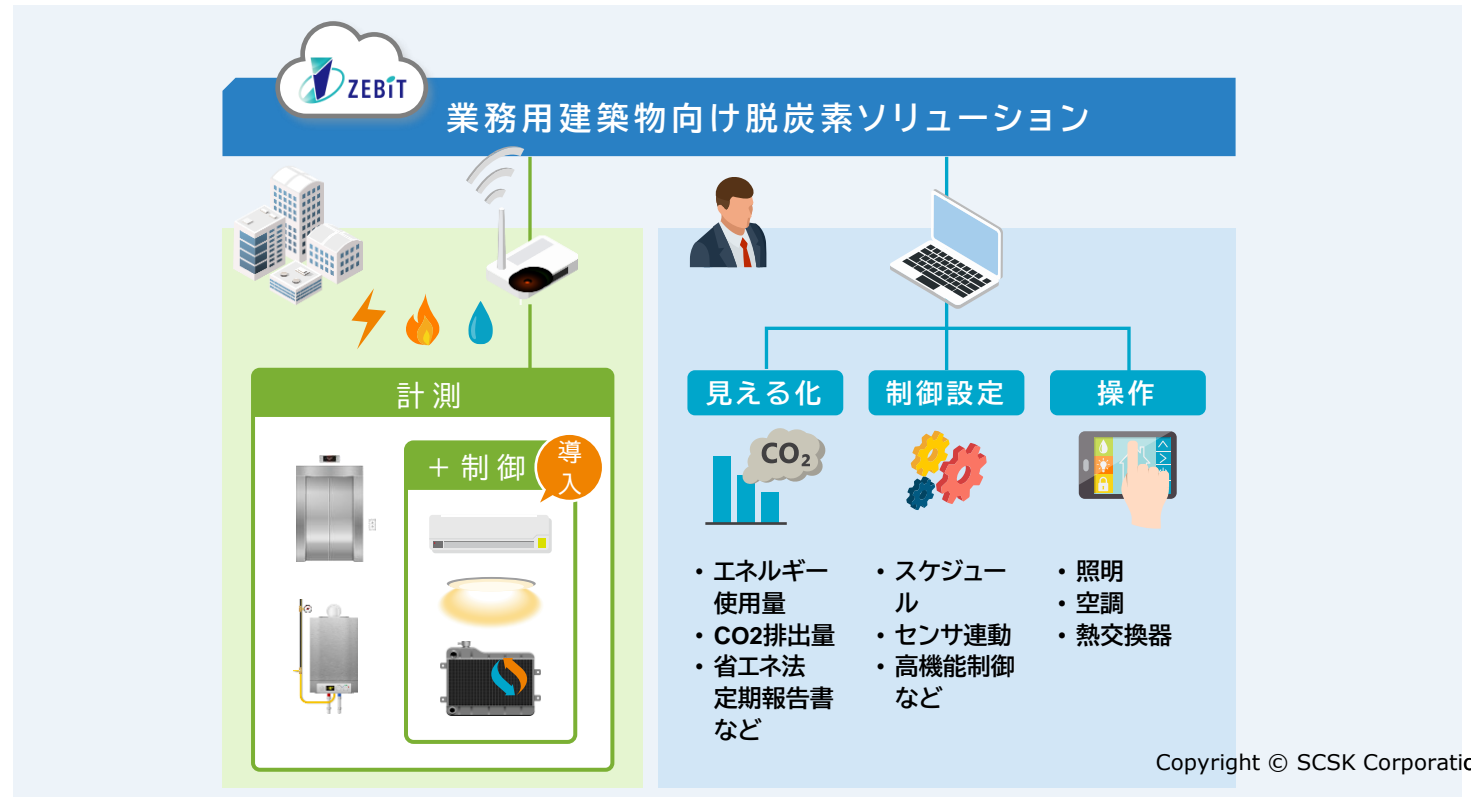
- 業務用建築物のCO2排出量は過去約30年間で48%増大

部門	過去の増減		今後の削減目標	
	1990 → 2019		2013 → 2030	
① 産業	24%減	↓	38%減	↓
② 業務その他	48%増	↑	51%減	↓
③ 運輸	1%減	↓	35%減	↓
④ 家庭	24%増	↑	66%減	↓
⑤ エネルギー転換	10%減	↓	47%減	↓

出典: 温室効果ガスインベントリ (2021年度、電気・熱配分後)

## 業務用建築物の省エネ・脱炭素化を支援するサービス「ZEBiT」を提供開始

- 「ZEBiT」は、IoT技術を活用して設備管理に関する業務効率化を実現するとともに、業務用建築物のGXを加速させ、建物のZEB(Net Zero Energy Building)化を支援する脱炭素ソリューション
- エネルギー使用量の可視化により建物全体のCO2排出量を算定するカーボンマネジメントと、設備の制御・状態監視を行うエネルギーマネジメントをクラウドサービスとして2024年4月から提供開始
- 延床面積5,000㎡未満の中小規模業務ビルを中心に2024年度末までに100棟、2025年度末までに450棟への導入を目指す



項目	23年3月期 (実績)	24年3月期 (実績)	26年3月期 (計画)
<b>財務目標</b>			
営業利益	513億円	570億円	650億円
営業利益率	11.5%	11.9%	12.5%以上
ROE	14.4%	14.1%	14%
<b>株主還元</b>			
配当性向	43.5%	47.7%	50.0%
<b>基本戦略 指標</b>			
基本戦略1-1*1	40%程度	—	60%以上
基本戦略1-2*2	26.5%	26.9%	29.0%以上
基本戦略1-3*3	470万円	501万円 (+6.8%)	570万円 (+20%以上)
基本戦略2	1,300億円	1,485億円	2,000億円

項目	24年3月期 (実績)	26年3月期 (計画)
<b>成長投資</b>		
M&A	69億円	500億円～700億円
R&D・ 事業開発	162億円	200億円～300億円
人財投資	51億円	100億円～200億円
(合計)	284億円	1,000億円

\*1: 実績は最終年度に開示

\*2: 国内ITサービス(物販除く)

\*3: 国内ITサービス

# 経営指標(非財務) 進捗サマリー

項目	23年3月期 (実績)	24年3月期 (実績)	26年3月期 (目標)
<b>人材ポートフォリオ・人材育成</b>			
コンサル・ ビジネスデザイン人材	265名	319名	500名以上
先進技術者 育成研修修了者	1,150名	1,745名	3,000名以上
高度PM人材	166名	183名	250名以上
デジタルスキル標準 教育修了者	1,600名	3,772名	10,000名以上
<b>Well-Being・D&amp;I推進*1</b>			
エンゲージメント (働きやすい会社)	90.6%	89.3%	90%以上*2
エンゲージメント (やりがいのある会社)	75.6%	78.0%	
パフォーマンス発揮度 (自分の能力が活かされている)	76.8%	76.1%	90%以上*3
パフォーマンス発揮度 (プレゼンティーズム)	81.7%	80.2%	
部長級の女性数	—	1.3倍	3倍以上*4

項目	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2030年度 (目標)	2050年 (目標)
<b>温室効果ガス排出量の削減*5</b>				
Scope1+2	約15%削減	約22%削減	47%削減	100%削減
Scope3	約6%削減	0.1%増加	28%削減	—

- \*1: エンゲージメント及びパフォーマンス発揮度については、新たに導入する「SCSK Well-Being Score」での取り扱いを行うとともに、今後は同スコアの測定結果を用いた開示への変更を予定
- \*2: 社員意識調査で、「働きやすい会社」及び「やりがいのある会社」の両項目にポジティブ回答を行った社員の割合
- \*3: 社員意識調査で、「自分の能力が十分活かされている」項目にポジティブ回答し、さらに健康アンケートで「健康な状態で発揮できるパフォーマンスを100%としたときに80%以上発揮出来ている」と回答した社員の割合
- \*4: 23年度3月期(実績)に対する比率を算出
- \*5: 2019年度比、2023年度(実績)については集計中

### < 当資料利用上の留意点 >

- ・記載金額は表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。また、％は表示単位未満を四捨五入して表示しております。

### < 免責事項 >

- ・本資料は、当社グループの業績及びグループ事業戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社及び当社グループ会社の株式の購入や売却を勧誘するものではありません。
- ・本説明会及び資料の内容には、将来の業績に関する意見や予測等の情報を掲載することがありますが、これらの情報は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されております。よって、その実現・達成を約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。
- ・本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。また、本資料の無断での複製、転送等を行わないようお願い致します。

**SCSK**

夢ある未来を、共に創る。